

二松學舎松苓會報

昭和62年12月1日創刊
 平成20年11月25日発行
 二松學舎松苓會
 〒102-8336 東京都千代田区
 三番町6-16 ☎03(3261)7408
 振替口座 00180-5-160343
 印刷(株) サンセイ
 〒103-0023 東京都中央区日本橋
 本町4-11-10 ☎03(5614)2515

平成20年度松苓會總會開催

―新体制での一年間の総括―

平成20年度の松苓會總會が8月2日(土)の13時から開催された。会場は昨年同様二松學舎大学11階の会議室である。

来賓として末吉榮三顧問・大山徳高理事長・渡邊和則副学長をお迎えした。出席は全国から27支部の支部長であり、昨年より一支部少なかった。本年度は新体制になってからの最初の總會であった。そのため、報告内容に数字の誤記などがあり、多少疑義が出たが審議の結果すべて承認された。

總會は例年通り物故者への黙祷から進められた。今年の

物故者は、秋田県支部長代理・五十嵐隆男氏及び滋賀県支部長の西村栄一氏の2名である。

会長挨拶の後、理事長・副学長の挨拶も頂いた。会長の挨拶では、母校発展のために将来を見据えて大学と松苓會との協力が必要との意が述べられた。

五十嵐清常任幹事の司会、松田存副会長の議長選出のあと、書記に西園隆士・志村孝幹事が任命された。支部長の出席は次の都道府県。

北海道・岩手・宮城・山形・福島・栃木・群馬・埼玉・千葉(代理)・東京・神奈川・山梨・新潟・福井・滋賀・鳥取・広島・山口・徳島・香川・高知・福岡・長崎・大分・宮崎・鹿児島(代理)・沖縄

平成19年度人事異動

支部長交代
 滋賀県支部
 新任 角井良暢(49回)
 退任 西村栄一
 秋田県支部
 新任 三浦基(41回)
 退任 佐藤寛

議案審議

1. 平成19年度事業報告
 緑川事務局長から平成19年度事業報告ならびに支部活動報告があった。支部總會を開催した支部は次の通りである。
 三重県・近畿連絡協議会・東京都・岩手県・長野県・宮城県・長崎県・秋田県・千葉県・神奈川県・宮崎県・大分県・北海道・静岡県・埼玉県・奈良県。
 なお、北海道と千葉県では

地区別の總會も開かれた。

2. 平成19年度収支決算報告・会計監査報告

緑川事務局長から決算報告、磯監事から会計監査報告があった。
 清水監事が途中で病気になる、出てこれなくなったので、苦慮したとの報告があった。

平成19年度会計収支決算報告の資料に誤記があったが、一部を修正して、承認された。

3. 平成20年度事業計画・会計収支予算

緑川事務局長から、平成20年度事業計画の説明があった。引き続き、平成20年度予算案についての説明があった。支部運営助成費の取り扱いについて意見が出され、審議した。

また、松苓會積立金について将来の安定的な運営を考慮し、出来る限り積み立てていく方針についての説明があった。

4. 会則ならびに細則改正について

大地幹事長から、会則及び細則を改正したいとの提案がありその説明があった。
 (改正箇所)
 ・会則第12条第2項に名誉会長の条文を立て、第12条の見出しを「顧問・相談役並びに名誉会長」とする。
 ・細則第4条の總會の開催を「毎年7月」から「毎年6月」に変更する。
 ・細則第5条第1項の幹事会は「会長が必要と認めた場合において会長が召集する」に変更する。
 ・同条第2項を「会長は新年度にかかわる重要事項について、総会前に幹事会の承認を求め」に改正する。
 ・同条第3項を削除する。
 審議の結果、異議なく承認した。

5. 役員欠員について

大地幹事長から、副会長及び清水監事から辞任願が提出され、会長がこれを受理したとの説明があった。さらに後任者の選出について常任幹事会で検討した結果を幹事会で選出することに一任願えないかとの説明があった。審議

平成20年度会計収支予算書

(平成20年4月1日～21年3月31日)

1. 経常費	単位 円	予算額
(収入の部)		
前年度繰越金		3,617,293
入会金		3,875,000
小計		7,492,293
会費		
新卒者終身会費		9,750,000
既卒者終身会費		300,000
小計		10,050,000
受取利息		6,500
雑収入		0
収入の部合計		17,548,793
(支出の部)		
事業費		
卒業生懇親会		700,000
小計		700,000
松苓会報発行		
印刷制作費		1,150,000
発送費		750,000
「茯苓」発行		700,000
小計		2,600,000
支部助成		
支部運営助成費		1,500,000
支部報発行助成費		300,000
支部強化助成		200,000
小計		2,000,000
母校支援事業		
教育振興資金助成		1,000,000
教育事業後援		200,000
松苓会奨学金基金		1,000,000
教育研究大会助成		100,000
小計		2,300,000
在学生支援事業		
学園祭助成		50,000
課外活動助成		180,000
県人会助成		300,000
卒業記念品贈呈		800,000
小計		1,330,000
事業費合計		8,930,000
運営費		
議費		200,000
会費・交通費		3,124,000
旅費		200,000
諸通信費		250,000
通備印刷費		500,000
備印費		250,000
消耗品		50,000
印刷費		100,000
慶弔費		60,000
謝手雑費		0
運営費合計		4,784,000
予備費		58,793
松苓会基金		
周年事業積立金		1,000,000
松苓会積立金		2,776,000
小計		3,776,000
合計		17,548,793

平成19年度会計収支決算書

(平成19年4月1日～20年3月31日)

1. 経常費	単位 円	決算額
(収入の部)		
前年度繰越金		3,289,196
入会金		3,755,000
小計		7,044,196
会費		
新卒者終身会費		10,875,000
既卒者終身会費		486,000
小計		11,361,000
受取利息		61,973
雑収入		20,000
収入の部合計		18,487,169
(支出の部)		
事業費		
卒業生懇親会		592,611
小計		592,611
松苓会報発行		
印刷制作費		930,300
発送費		502,784
「茯苓」発行		1,433,084
名簿発行		700,000
支部助成		714,000
支部運営助成費		1,290,000
支部報発行助成費		270,000
支部強化助成		0
小計		1,560,000
母校支援事業		
教育振興資金助成		1,000,000
130周年記念事業後援		400,000
松苓会奨学金基金		1,000,000
教育研究大会助成		200,000
小計		2,600,000
在学生支援事業		
学園祭助成		50,000
課外活動助成		250,000
県人会助成		0
卒業記念品贈呈		720,038
小計		1,020,038
事業費合計		8,619,733
運営費		
議費		233,080
会費・交通費		3,612,600
旅費		213,000
諸通信費		236,956
通備印刷費		487,503
備印費		220,289
消耗品		35,705
印刷費		15,750
慶弔費		85,540
謝手雑費		56,385
小計		5,196,808
予備費		53,335
松苓会基金		
松苓会基金への繰入		0
周年事業積立金		1,000,000
予備費・松苓会基金合計		1,053,335
支出の部合計		14,869,876
(収支残高)		3,617,293

① 緑川事務局長から、総会の結果、総会として副会長、監事の選出について幹事会へ一任することとした。(報告事項)

開催に伴う交通費・宿泊代等経費の削減について、指定のホテルを利用いただきたい。また、経費の支払については後払いとしたいとの依頼があ

った。② 平田常任幹事から、法人との連絡協議会への出席者について要望があった。これに対して、規程化した方がよいので

はないかとの意見が出された。③ 平田常任幹事から法人評議会の報告として資産運用方法について疑問があるとの発言があった。

④ ホームカミングデー参加依頼 議長から、明日(8月3日)開催のホームカミングデーへの参加依頼があった。(緑川 祐介)

平成19年度(2007.4.1～2008.3.31)の会計執行状況について監査の結果、諸帳簿ならびに、金銭管理状況は適正であり、収支に誤りのないことを認めたのでここに報告致します。

平成20年5月14日

松苓会監事 清水 忠 磯 水絵

平成20年度二松學舎大学

ホームカミングデーに参加して

宮本 義孝

8月3日(日)に催された平成20年度ホームカミングデーでは、文学部32回(昭和39年3月)卒業生も改めて個別に案内をいただきましたので、前日行われた松茶会総会に引きつづき、私もこの懇親会に参加してきました。

会の始まりは午前10時30分からでしたが、大学から歩いて10分もかからない九段会館に宿をとったので、此の日、随分、早く着いてしまいました。

そこで、本館に入る前、別館に在る「大学資料展示室」に寄ってみました。ここでは、「二松学舎の世界」という企画展が催されていました。室内はさほど広くはないのですが、展示はよく整理され、まとめられていると思います。

あれこれ、30分ほど眺め、私がこの展示から一番強く受けたメッセージは、曾つての二松学舎は、時代の流れに對

峙して自己を主張していたということでした。

明治の日本の最大の課題は、国を出るだけ早く近代化することでした。そのため、西欧の文明を無批判に取り入れていったのですが、そのことは、これまでの日本の文化を否定する風潮をも生みました。

そういう時流の中に在って、異議を唱えつづけたのが二松学舎だったと思うのです。

そして、それから百数十年が経った今、西欧の機械文明は、本当に我々人間の心を満たし、幸せをもたらしてくれているものだろうかという疑問が、いろいろな所から出され、日本の有りようが見直されつつあります。

現在、日本の大学は規模として大きく立派になりましたが、これからの国際社会での日本を視野に入れて教育を行っている学校は、案外少ないのではないかと思うのです。日本の文化の一翼をにな

っているといった感慨に、どうも欠けているように感じます。そんなことを考えながら、この資料展示室を出て、受付のある本館地下の学生ホールに移りました。

受付を済ますと、その奥が、作品展示会場になっていて、書、篆刻、工芸、写真などといった、卒業生、在校生の作品が並べられてありました。その中に、漱石の、短冊、色紙、軸、扁額が数点あり、これは、僥倖を得た気分でした。

漱石の書は、あの神経の細かさに似ず、いずれも伸びやかな書風でしたが、これは、ゆったりした書風の中に繊細な神経を休めていたのかもかもしれません。そんなことを思いながら、作品を見て廻っていると、突然、金管楽器の音が響きました。

時間は10時半。中洲記念講堂で、大学吹奏楽団による演奏が始まったのです。曲は、シエルドン「ヒルカントリ」の休日」など、4曲でした。

それが終わると、11時10分から、同じ場所、およそ一時間、青山忠一名誉教授の「江

戸言葉の意味とはじまり」という講演会がありました。「いなせ」「お節介」「けりをつける」など、日頃、我々が何気なく使っている言葉二十語を取り上げ、江戸の文化とそこから生まれた言葉の起源を探ってゆくといった内容でした。軽妙な語り口の中に、「ああ、そうだったのか」と、目から鱗の落ちる楽しさが核になった話でした。

その後、セレモニーとして幾つか挨拶のあった後、席を13階ラウンジに移して、午後1時から懇親会がもたれました。

この懇親会は全部で154名の参加でしたが、残念なことには、私と同期の卒業生は私を入れて2名だけでした。卒業してすでに40年以上経ってしまったえば、亡くなった人、今、病気になるている人もいないわけではないのですが、一方、それなりに息災で、東京及びその周辺に在住している人も結構いるはず。多分、お互いの声掛けがなかったのだと思います。

初め、私も億劫に感じて欠席するか迷っていたのですが、

松茶会事務局の天谷さんの呼びかけで参加したのでした。そして参加してみれば、知った人も結構いるし、知らぬ人も同じ仲間内、それなりに話が弾んで、思いの外、楽しい一時ではありました。来年以降、もし参加を考えている方は、事前に連絡を取り、お互い声を掛け合って多く集まるようにした方がよいでしょう。

逆に20名参加の文学部47回卒や15名参加の57回卒は、大いに盛り上がり、午後3時、閉会になっても名残り惜しげに会場をなかなか去り難き様子で居残っていました。

なお、ホームカミングデーは、その年ごとに個別に案内する卒業年度があるのですが、畑さんの文学部26回卒業生は、それとは別に、毎年参加することに心がけているんだそうです。齢、70を越すと、その年々に、人は亡くなってゆきます。それ故にこそ、一期一会といえますか、只今、ここに在る出逢いを大切にしているんだそうです。今回は、畑さんと私の他に、岩手県からは文学部52回卒の三浦真琴さんも参加しました。

平成20年度

ホームカミングデー開催される

平成20年度ホームカミングデーが平成20年8月3日(日)に開催された。

この企画は、大学九段新校舎が竣工したのを機に、気軽に母校を訪ね最新設備を備えた新しい校舎を見学していただき、さらに、恩師の先生方等と再会し楽しいひとときをすごしていただくことを目的に、平成17年度から大学と松茶会の共催で開催しており本年度は4回目。

当日は、本館地下2階の中洲記念講堂において午前10時30分から学生吹奏楽団の演奏で幕を開け、午前11時10分からは青山忠一本学名誉教授による「言葉の意味と始まり」と題する講演が行われ、多くの参加者が現役時代と変わらぬ歯切れのよい講演に聞き入っていた。

12時10分からの開会式では、渡辺和則副学長、大山徳高理事長、神津賢一郎松茶会長の挨拶があり、参加者全員で校

歌、学生歌を斉唱、その後会場を13階のラウンジに移し懇親会を開始した。

参加者は、専門学校第12回卒業生(昭和16年卒業)から最近の卒業生まで全国各地からさらに名誉教授と大学現職教職員を含め約120名、先輩、後輩、同期生と近況報告などを行いながら和やかに懇談し、恒例の抽選会などを楽しんだ。

また、ホームカミングデーに合わせて開催された企画としては、本学卒業生の著作「松茶会文庫」を展示するコーナー、卒業アルバム展示コーナー、入学案内展示コーナー、7月28日(月)から8月3日(日)間で開催された卒業生・在学生の作品展(書・写真・書籍・彫刻等)、大学資料展示室特別展「二松学舎大学の世界」などがあり、それぞれ多くの卒業生が参観し賑わいをみせていた。

(五十嵐 清)

ホームカミングデー写真集





第4回二松學舎大学ホームカミングデー



第4回二松學舎大学ホームカミングデー



第4回二松學舎大学ホームカミングデー



平成20年度支部総会報告

◇北海道支部

支部長 奥村 悠二郎

今年の夏は例年になく暑い日々が続き、遅れた秋となる様子でしたが、9月に入ると例年通り秋の季節が巡ってまいりました。昨今は朝夕にも



暖房が恋しくなり、北海道は冬の準備を迎える季節となりました。平成20年の北海道支部活動状況をお知らせします。

支部総会は、平成20年8月30日(土)札幌市内「浜料理・磯金」で開催となり当日の参加者は、本部からお越しの緑川事務局長を含め、総勢十四名で実施しました。

テンプルに並んだご馳走を目の前にし、総会議題の平成19年度決算並びに平成20年度予算を早々に終え、早速、乾杯の音頭の付け足しに支部長挨拶となり、懇親会に移行いたしました。緑川事務局長より松苓会本部の活動状況や、大学の現状等についての報告と共に、学校関係のパンフが詰まったバッグが、各個に配布となりました。重たい書類を持参した緑川事務局長、本当に有難う御座いました。懇親会は、各自の自己紹介を兼ねた勤務先状況の案内で進みました。話の合間には感想と意見が挟まったせいで、中々

最後の一人に辿りつけませんでした。九段集約による新校舎建設、少子化による経営展望等、それぞれに喜んだり心配したり、同窓の一体感を感ずるところでもありました。

二次会に移行した面々は現職教員が多数を占めたため、教員資格制度や担当事務処理の問題及び転勤等の話題で盛り上り、時間の経過も忘れる程でした。公共交通の終電に追われるように散会となりましたが、幾人かは再び、スキノのネオン街に繰り出して行きました。

支部総会出席者

- 中 紀 義 (37期)
- 奥村 悠二郎 (36期)
- 山崎 郁 紀 (36期)
- 川谷 文 雄 (39期常呂)
- 増井 義 昭 (39期)
- 不動 和 則 (43期)
- 岡野 誠一郎 (45期)
- 佐賀 敦 司 (49期静内)
- 花 木 弘 弘 (49期恵庭)
- 吉野 泰 正 (55期砂川)
- 加藤 哲 朗 (55期)
- 若松 顕 仁 (56期千歳)
- 永田 哲 之 (65期室蘭)

「松苓会会報」の原稿依頼通知と同時に、道南分会開催の案内が届き、今回の報告は道南分会の総会案内と併せた紹介となりました。

毎年の恒例行事となりました。松苓会北海道支部の道南分会総会は、平成20年10月18日(土)、函館市内「ホテル函館ロイヤル」での開催となり、田島分会長を含めて八名の参加で開催しました。

当日の目玉は、道南分会の立ち上げに事務局として活躍された古賀氏の出席でした。私事により不参加を余儀なくされていましたが、本年春の定年により楔が取れたようです。昨年に定年となった田島分会長、来春に定年を迎える開原氏等、退職者が多数を占める状態となりました。

現職者は、南部氏と吉川夫妻を残すところです。支部の18年決算及び19年予算の内容と併せて、松苓会本部並びに大学の動向を報告しました。

来年に向けての方針は、道南分会の若返り策として、事務局の吉川氏が、市内及び近郊の二松學舎出身者となる教職員を調査して、時間の余裕

がある先輩夫々が、分担して会員の確保を図ることが確認されました。来年の分会総会を楽しみにして散会となりました。

道南分会総会出席者

- 南部 知 正 (37期)
- 田島 基 義 (38期)
- 開原 正 信 (39期)
- 古賀 俊 治 (40期)
- 吉川 肇 (59期)
- 吉川 真理絵 (60期)
- 奥村 悠二郎 (36期)
- 山崎 郁 紀 (36期)



◇秋田県支部

支部長 三浦 基

先輩とはありがたいものである。5月の全国高校長協会総会に合わせて、二松学舎出身の高校長懇談会が九段校舎で開催された。

同じ時間帯に別の会もあるのだが、校長4年目、支部長になったことだしと出席した。なんとも不義理な卒業生で、昭和48年3月卒業以来、初めての九段校舎である。

懇談会の席上、今年8月、



秋田で大学説明会があり、野村先輩が担当であることを聞き、秋田県支部総会を同じ会場で行うことに決めた。

私の大学4年間、どうにか続いたのは中国語文研究会の活動だけであった。その語文研のドンが野村先輩であった。節目の時、組織が揺らいだ時、

当時どんな立ち場だったのか決まって現れた。阿佐ヶ谷の狭い部屋に呼びつけられ、何やら難しい話を聞かされた。中国語劇と共に懐かしい限りだ。

大学説明会は予想に違わず、勤務する御所野学院高校の二松学舎出身2名と野口養吉会員と私だけ。市内高校の始業式前後であり、しかも平日、卒業生でも無理。今の時期に二松学舎進学を選択肢に入れている進学校は少ない。連絡はしたものの時期が早すぎる。せつかく設定したのに残念である。

8月19日大学説明会后、秋田県支部総会が開催された。会場は同じホテル「メトロポリタン秋田」であり、大学側からそのまま5名の出席を得た。会員は高校教員の若手6

名を含め、13名が参加した。始めに前支部長が、前副支部長故五十嵐氏に黙祷し、その後、総会議事を審議した。支部会報の発行を予定し、来年度総会は同時期に秋田市で開催することとした。

縁というものは不可解なものだ。懇談会での自己紹介を兼ねた挨拶を聞くと、18名の出席者全員が誰かと何処かで繋がっている。学生時代、卒業後、生まれや育ち、そして

現在。あちらこちらで話がつながっていく。野村教授と秋田大学石川教授の議論が盛り上がる。二人の若かりし頃の



縁も興味深い。議論らしい議論を久々に聞いた。秋田で先輩と呼べる方が少なくなっていく。

平成20年度秋田県支部総会出席者

二松学舎大学から

野村 邦 近 (文学部長・大学34)

白石 まりも (国際政治経済学部教授)

高柳 幸 雄 (柏教学部長・大学49)

中原 敬 二 (入試課課長補佐・大学62)

小林 公 雄 (事務局長・大学38)

秋田県支部役員

野口 養 吉 (専門17)

小田嶋 祥 夫 (大学34)

関谷 都志子 (大学35)

佐藤 寛 (大学38)

石川 三佐男 (大学40)

藤田 誠 悦 (大学50)

熊谷 禎 子 (大学56)

小川 康 (大学64)

秋田県支部役員

三浦 基

(支部長・大学41)

近藤 和 裕 (副支部長・大学41)

奥山 陽 子 (会計監査・大学46)

松本 しおり (幹事・大学54)

工藤 正 隆 (幹事・大学62)

◇岩手県支部

支部長 宮本 義孝

今年、松苓会本部から松田存先生をお迎えし、7月27日、北上市のホテル「シティプラザ」で支部総会をもちました。

母校の現況を松田先生から伺い、次いで、支部会員の異動や近況、支部活動と収支決算の報告、そして今後の会の在り方等について皆で話し合いました。

ところで、今、手元には、昭和61年度からの総会出席者の名簿があるのですが、それに依ると、毎年参加している会員は10割前後で、顔触れは、ほぼ変わっていません。そしてそれも38回より前の卒業生に偏っています。このことが

最近になって、支部の問題として現れてきているように思います。

毎年、欠かさず参加しておられた佐藤美次先輩は、95歳を超えて、昨年初めて総会を欠席なさいました。また中野富弥先輩も体調思わしくなく欠席されています。更に佐々木英司君や瀬川孝三君も健康を損って出席がむずかしくなってきました。

今、老いを迎え、病氣と向き合い、これまで支部の活動を支えてきた会員たちは、一人二人と欠けていっています。

しかし、そう思う反面、東京出張で母校の近くを通ったら、学生時代のことが思い出され、懐かしかったとか、自分が、今在るのは、やはり二松に入ったからなんだとか、或は、長い闘病生活を経て職場に復帰したら、今年来た上司が母校の先輩で、今は、いろいろ気遣ってもらっているなどと云った報告に遭うと、卒業生にとって、やはり母校は、心の支えになっているように思われます。

これからの、この次第に懸念を抱く一方、支部の活動

を次の世代に繋いでやらねば、と思ったりもします。

このことについては、もう少し時間をかけて、ゆっくり考えてみたいと思っています。

その後、会議用の殺風景な部屋から、北上川の面を渡る風が、涼を運んでくるさわやかな部屋に席を移して、懇親会をもちました。

東面、部屋いっぱい開いた窓からは、緑を濃くした山の連なりが見えます。空を渡る風も、緑に染まっているようでした。

柔らかな瀬音、心地良い涼しさに包まれ、話が弾みました。そして、なによりも、一年振りの再会を喜び合いました。

懇親会の終了予定は、3時頃でしたが、話は尽きず、会は延々5時近くまでつづきました。そして、なお話がとぎれぬまま、松田先生、畑さん、小山さんは、そのままホテルに泊ることになりました。私は、一週間後、松苓会の総会、ホームカミングデーと、東京に出掛けることがつづくので、

お誘いを断りましたが、話の成りゆきで、三人は、翌日、

八幡平に行く計画を立てたそうです。けれど、夜来より激しく降り出した雨は、夜が明けても止まず、この計画は来年まで持ち越されることになったという事です。

こうやって、何度か会に出席し、皆と親しく話を交している、皆と親しく話を交している、これまで億劫だった参加が、いつの間にか、自分にとってかけがえのない生活の一齣に変わっていることに気づいて、驚いたりもします。

これからの一年間、互いに健康に留意して、無事にまた此処で再会できることを約して、5時半過ぎ、私は、会場であるホテルを退きました。

「酒沼北水緑楊津 東嶽帯青風暖 往昔渡舟今不見 衆車橋上疾驅頻」。帰り際、土手から見た北上川とその周辺の様子は、今も佐藤美次先輩の詠んだ絶句と少しも変わっていませんでした。

◇宮城県支部

支部長 千葉 仁

支部総会

日時

平成20年8月18日(月) 17時00分～19時30分

場所
ホテルJALシティ(仙台) R仙台駅の最寄)

出席者

野村邦近文学部長

白石まりも教授

高柳幸雄柏教学部長

中原敬二入試課長補佐

支部会員

現役高校教員 8名

教員OB会員 2名

小計10名

計14名



当日は午後から、大学の入試説明会と個別説明会が持たれました。その二つの会の終了後に、同会場において同窓高校教員との懇談会が開かれ、それに便乗した形で支部同窓会を開催しました。

大学から県内の高校現役教員を対象に、開催・参加の呼びかけが行われましたが、松苓会支部としても、ぜひ参加して大学の現状・新規構想・将来構想等をお聞きし、要望・請願等を申し上げ、懇親・懇談をされるように、勧誘の文書を発送しました。特に、県内の高校教育現場の現職教員の参加を強く呼びかけました。

電話でも勧誘しましたが、反応は思わしくありませんでした。11名の登録にこぎつきましたが、当日欠席もあり10名の参加に留まりました。

大学側の「受験・進学・就職・教育研究」状況等の懇切なご説明を拝聴し、その充実発展ぶりに感心し安堵しました。参加会員の現在の活躍ぶり・在学時代の思い出・大学への要望等が語られ、また地方・東北地方からは容易に入れなくなつたこと、また教員

を志望して入学しても、なかなか意が遂げられない実情にあるという、問題点が浮き彫りにされ、大学側もより真剣に取り組んでおられる様子を理解することができ、今後を期待できることになりました。

また、悲しむべきこととして本支部だけではなく、若い同窓生の反応が鈍く、喜んで参加してくれない、「私には関係ありません」という意識が目立つという点であります。

前は、集まって情報を交換し励ましあい、職場の知恵や経験を親しく教わり、自己研修の大事な機会であり、とても大事な会だと思ひ出します。同窓の誼として隔意なく語り合い、職務遂行に役立てたことを思い起こします。すばらしい教授、著名な学者に教わった至福な青春時代の強烈な思い出が次々と語られたものです。

大学とは「大きな学校のことではない」「大きな学問を授ける場だ」という絶対的な誇り、それが著名な学者から直伝され、学ぶことに喜びを感じて学問をかじった、という体験。源氏も枕も、秋成

も芭蕉も、漱石も一葉も本格的にかじり、論語・孟子・李白・杜甫・魯迅にひたり読んだという充実感があり、山岸徳平先生・萩谷朴先生・萩原羅月先生・重友毅先生・関良一先生・飯塚友一郎先生・佐古純一郎先生、内田泉之助先生・加藤常賢先生・石川梅次郎先生・赤塚忠先生・石橋厚水先生・石川忠久先生等々、忘れたい恩師の強烈なイメージの一コマ一コマ、学恩と、

そのご著書を読みふけた喜びと誇りが、異口同音に発せられました。

地方から出て、著名な学者に直接教わった喜びは何者にも換えられない至福であり、誇りであり自信でありました。その喜びがその世代ごとに語られ、塾的な修学の楽しみこそ大学の真髄だろうと拝聴しました。

若い同窓生からもそんな体験話を聞きたいのですが、そんな話はあまり出てまいりません。そもそも支部総会への参加者が限られており、なんとか掘り起こしをしないと取り組んでおり、会員が出品した書道展や発表会等にも

同窓生同士が押しかけたり、ふれあいの機会を多くしたりと努力しております。



◇新潟県支部

支部長 坂井 福作

昨年に開催を予定していた支部総会を10月4日(土)に開くことが出来ました。支部長に就任してから、早い機会に総会を開かねばならないと考えていました。しかし、昨

年は「中越沖地震」という、予想もしていなかった災害に見舞われてしまいました。勤務先が震源地の柏崎市にあった関係で、復旧に向けて全力を注がなければならない状態でした。新潟県では、隔年おきに支部総会を開催していた経緯から、昨年の秋に何とか開きたいという思いで一杯でしたが、やむを得ず断念しました。

また、事務局を永年勤めていただいた庭野先生から新しく横山先生に変わったこともあり、今年は何とかして秋に開催したいと言う思いでした。事務局の横山先生、佐野先生のご協力により何とか開催にこぎ着けることが出来ました。

当日は、酒井(専19回)、村山(文23回)、丸山(文24回)、巻(文33回)、渡辺(文38回)、坂井(文42回)、佐野(文49回)、横山(文65回)の8名の出席により、総会を開きました。議事として、会計報告、活動報告等を行い、その後は支部活動の活性化について話し合いました。新潟県は会員数が多い割に支部総

会の集まりが良くないことから、毎回、何とかしたいという意見が出されました。特に、若い人たちの参加が少ないことが大きな悩みになっています。魅力ある同窓会にするには、どのような対策が必要なのか、いくつかの意見が出されました。

- ・二松学舎大学も学部が二つになり、卒業生も教員だけではないので、それらの方々も気軽に参加できるようにしてはどうか。
- ・文学散歩や講演会等、興味ある催しをしてはどうか。
- ・大学から恩師を招くことで参加者が多くなるのではないかと。
- ・副部長に中学校籍から出てもらってはどうか。

なによりも同窓生が学生時代を懐かしみ、母校の発展に微力ながら尽くせる支部活動を展開していきたいと思ひます。総会后、懇親会を持ち、近況報告や学生時代の話に花が咲き、和氣藹々のうちに会を閉じ、次回の再会を誓いました。

◇長野県支部

支部長 関 保典

- 1. 日時 平成20年7月26日(土)午後1時
- 2. 場所 長野市中御所岡田町131-4 ホテル信濃路
- 3. 出席者 (公立共済)

来賓 二松学舎大学副学長

- 渡辺 和則先生
- 支部会員 8名
- 嘉部 益次(17回)
- 関 保典(35回)
- 上原 克善(39回)
- 清水 登(42回)
- 大工原 明人(42回)
- 原田 泰(51回)
- 柳澤 宏至(55回)
- 江村 春彦(57回)

- 4. 総会 午後1時
- 挨拶 関 保典支部長
- 来賓挨拶 渡辺 和則先生
- 議事
- ①議長選出
- ②平成19年度事業報告(文学散歩を中心として)
- ③平成19年度会計報告ならびに予算案

江村 春彦
大工原 明人

④その他 支部総会の開催時期ならびに文学散歩の運営方法について

- 5. 講演 午後2時30分～3時15分
- 講師 二松学舎大学副学長 渡辺 和則先生
- 演題 「経済学の考え方―經常収支と資本収支、貿易の利益、為替相場についての正しい理解―」
- 6. 懇親会 午後3時20分～6時

文学散歩の報告

中仙道と軽井沢

日時 平成20年9月21日(日)

10:00～13:00

- 参加者 嘉部 益次前支部長
- 関 保典支部長
- 清水 登副支部長
- 計3名

- 日程
- 10:00 軽井沢駅集合
- 10:30 つるや旅館
- 10:40 芭蕉句碑
- 10:50 英国聖公会堂

◇千葉県支部

支部長 大山 徳高

平成20年度支部総会が、8月30日(土)午後4時から、16名の出席者により、千葉市の珈琲喫茶「ボンヴィル」において開催された。

今回の支部総会は、千葉地区の集まりも兼ねたもので、会場の「ボンヴィル」は千葉地区会員でもある、竹内恵子さん(34回卒)の御好意によるご提供であった。

議題に入り、大山支部長が挨拶の中で、支部活動の活性化の為に、会員の地道な努力の要請があり、大学の近況では、九段集約について、九段新校舎の進捗状況等の説明があった。続いて、副支部長でもある辻千葉地区長からの挨拶があった。

審議は、平成19年度活動報告及び収支報告・監査報告が



い会員が参加しやすい環境作りの方策を話しあった。

平成20年度支部総会出席者
大山 徳高 (36回・支部長)

辻 将一 (45回・副支部長・千葉地区長)

小林 憲二 (38回・事務局長・東葛地区長)

山口 浩司 (国政3回・事務局次長)

山口 朗 (62回・長生・夷隅地区長)

長谷川 日出世 (国際政治経済学部教授)

浅井 昭治(専18回)

竹内 恵子(34回)

藤本 敏雄(40回)

田村 喜夫(50回)

土屋 誠(50回)

林 圭子(51回)

瀧川 恵子(51回)

大平 晃(52回)

橋本 浩(国政5回)

仲田 淳一(72回)

千葉県支部役員会

日時 平成20年8月30日(土) 14時



◇東京支部

支部長 木村 正雄

平成20年7月19日(土)、

- 場所 千葉市 珈琲喫茶「ボンヴェル」
- 出席者 大山支部長 他 3名
- 議題
- 一 支部長挨拶
- 二 平成20年度支部総会について
- 三 今後の活動について
- 四 その他

九段会館において平成20年度総会が開催された。総会に先立ち、正午より役員会、午後1時30分より常任幹事会を開催、議題の検討等が行われた。

午後3時より総会開始。木村支部長による開会挨拶の後、議長に大淵俊明氏(50期)を選出し、議事に入った。平成19年度の活動報告並びに決算報告を神河副支部長と菅原事務局長が行った後、菅根監事による監査報告があり、いずれも承認された。続いて、平成20年度活動計画案と平成20年度予算案についても説明があり、同じく承認された。質疑応答の時間では、支部の活性化等についての活発な意見交換があった(総会出席者は、委任を含め60名)。

東京支部懇親会

会場のセッティングを整え、午後4時より懇親会がスタート。木村支部長の挨拶、来賓紹介に続き、神津松苓会長による乾杯の発声で盛大に始まった。今年は、卒業生の田邊雅久さん(政経10期)が所属する、ヒップホップ・グループ「クラフト」を招き、アト

ラクションを実施した。「クラフト」は、約30分にわたって歌とダンスを披露、現役学生を含む参加者から大いに喝采を浴びていた。懇談の後、招待者挨拶として、橋本附属高等学校長、神奈川支部廣田支部長、千葉支部小林事務局長より挨拶があり、最後は恒例の佐佐木顧問による「二松ファイト」で盛り上がり、閉会となった。(菅)



平成20年度東京支部活動

ことしの総会は、三年つづいた大学13Fより、九段会館地下に移して行なわれたが、

ことしの東京支部活動は、20年11月29日(土)千葉県佐倉市で文学散歩を行ないます。佐倉市には、日本最大の「国立歴史民俗博物館」見学を中心に、順天堂医院記念館・武家屋敷・旧堀田邸・佐倉市立美術館・おはやし館見学を行ないます。他支部のみなさまのご参加も歓迎します。又、来年3月7日(土)、出前講座として、大学を出て、文京区民センター(都営三田線春日駅上り予定)で、第八回生涯講座を、本学教授田村紀之先生にお願いし「日中問題に考える」ようなお話をお願いしています。一般の方々も参加出来る公開講座として行ないます。各支部のみなさまもご参加下さい。東京支部は今後も、大学PRを行なうような行事を進め、新入学者が募うような活動を進めます。又、東京支部では、関東各支部との交流を深めて参ります。

◇神奈川支部

事務局長 井上 興正

平成20年8月17日(日)例

年になく厳しい残暑の中、JR根岸線本郷台駅前にある県立地球市民かながわプラザで10時30分から第31回松苓会神奈川支部定期総会が開催されました。

平野光治氏の開会の辞に始まり、支部長代行菅吉四郎氏の挨拶に続き、来賓の本部事務局長緑川佑介様、東京支部副支部長神河秀春様から丁寧なご祝辞をいただきました。

議長に前田明氏が選出され、議事に入りました。平成19年度事業報告、同年会計報告が事務局長井上興正から行われ、次いで監査報告が保田完次氏からあり満場一致で承認されました。

平成20年度は神奈川支部の役員改選が行われる年度に当たり、年頭から数次に亘る調整を三役の間で行われ、新役員案が提出されました。井上事務局長から経過報告があり、満場一致で原案のとおり採択されました。

次いで、本年度の文学歴史探訪の担当地区長平野光治氏から11月8日に愛川方面で行う旨紹介があり、全ての議事を終了しました。



新支部長廣田克己氏から着任の挨拶があり休憩に入りました。

後半は児童文学の権威で第40回卒小川英子氏による(児童文学でホロコーストを描く―「統アンネの日記」の試み)講演がありました。氏は、現代の子どもたちも、その親も戦争は知らない。なぜ戦争になるのかも知らない。しかし、戦争は人類の歴史であり、いつの時代にも存在した。戦争がもたらす悲劇を如何に児童に伝え、戦争と平和の矛盾が

児童心理にどのように関わるのかを追求した講演は大変有意義なものでした。

講演終了後、来賓、講演者、参加者一同記念撮影をし、プラザ内レストランに席を移し昼食懇親会に入りました。東京支部長木村正雄氏、新県史地区長平野光治氏、新川崎地区長小林孝彰氏、新事務局局長高橋佐和子氏から夫々一言いただき和氣藹々のうちに保田副支部長の閉会の辞で終了しました。

総会出席者は次のとおりです。(敬称略)

- 来賓 本部事務局局長 緑川 佑介 (28回)
- 東京支部副支部長 神河 秀春 (47回)
- 出席者 東京支部長 木村 正雄 (25回)
- 神奈川県支部 支部長代行 菅 吉四郎 (25回)
- 副支部長 廣田 克己 (修5回)

事務局長・会計 井上 興正 (27回)

川崎会員 小林 孝彰 (38回)

横浜地区長 中川 俊一郎 (修10回)

横浜会員 小川 英子 (40回)

県史地区長 保田 完次 (41回)

県史委員 平野 光治 (40回)

県史会員 保田 陽子 (39回)



三浦地区長 前田 明 (修15回)

川崎地区長 高橋 佐和子 (57回)

支部長 神津 賢一郎

大学に少しでもお役に立てればと思います、大学説明会と支部総会を同日に開催致しました。平成20年9月6日(土)静岡グランドホテル中島屋(静岡市)で大学説明会が午後2時から午後4時半まで。支部総会は説明会終了後に開催。総会開催に先立ち、松茶会員、萬羽省吾氏(40期・伊東市)、清水繁氏(26期・浜松市)が他界されたお葉書をいただきましたので、報告して、ご冥福を祈り、謹んで黙祷を致しました。

来賓として、本部より松茶会幹事長で大学教授の大地武雄先生にご臨席いただき、ご挨拶をいただきました。平成19年度事業報告・会計収支決算報告等が承認された後に、

望月昇氏(38期・富士宮市)より、静岡県漢詩連盟設立と石川忠久先生の講演会についての協力要請の説明がありました。松茶会としても支援したいと思えます。

総会終了後、大学説明会にお見えになられた文学部長・野村邦近先生、国際政治経済学部長・鈴木朝生先生、入試課職員の方々と合同の懇親会を行いました。懇親会では説明会や総会で十分話し合えなかったことなどが、たくさん出て話が盛り上がり、大変有意義な懇親会であったと思います。

支部総会の反省点としては、開催時期が例年は8月末の日曜日に実施していたのですが、大学説明会の期日・会場が、なかなか決まらず、会員への連絡が遅くなってしまいました。また開催時間が例年は昼食をはさんで実施していたのですが、今回は大学説明会終了後の午後4時半からということでご出席困難な方がありました。

なにも、静岡県は東海道新幹線の駅が五つもあり、東部の御殿場、伊豆半島、西部は

松苓会員出版物寄贈のお願い

二松学舎大学附属柏校舎図書館では、松苓会員が刊行した出版物の収集に努めております。

ご寄贈戴いた御著書は、本の背に黄色のラベルを貼り、表題紙には著作者の卒業回数を書き記入して、一般図書と区別し、「松苓会文庫」コーナーとして別置しております。

「松苓会文庫」とは、二松学舎専門学校・二松学舎大学の卒業生及び大学院修了者の著作を集めたものです。

褒賞

矢野 結子

(205B2208)

読売書法展(かな部門)

〈秀逸〉

全日本高校大学生書道展

〈書道展賞〉(かな部)

竹之下 まりあ

(205B2139)

読売書法展(漢字部門)

〈入選〉

〒277-8585 千葉

県柏市大井2590 二松学舎大学附属柏校舎図書館宛に御寄贈いただければ幸甚に存じます。

(尚、御寄贈の際は、卒業回数か卒業年度をお知らせ下さい。)

卒業生は、来館し、ご登録していただければ、閲覧・貸出しなど在校生と同様に大学図書館を利用することができます。

成澤 麻璃生

(205B2115)

全日本高校大学生書道展

〈書道展賞〉(漢字部)

会員業績

○深澤 賢治氏(37回)

陽明学のすすめⅡ 人間学講座「安岡正篤・六中観」明徳出版社刊

○嵯峨 恵子氏(45回)

悠々といそげ

思潮社刊

○辰巳 正明氏(院修3回)

懐風藻 日本の自然観はどのように成立したか 笠間書院刊

○井上 治代氏(41回)

墓と家族の変容 岩波書店刊

○芳賀 廣美氏(専門4回) 秋霜・春風九十余年

○岸元 史明氏(院修3回) 紫式部日記誤読の研究 岡山言葉全国比較



訃報

ご冥福をお祈り致します。

水原一(専門16回卒)・平成20年10月26日死去(83才) 駒沢大学名誉教授・本学元非常勤講師

平成21年 二松学舎大学・一般入学試験日程

文学部(国文学科・中国文学科)

10専攻

国文学・映像・演劇メディア、日本語・日本文化、比較文学・文化、東アジアの文化と社会、中国文学、日本演学、中国語、書道、韓国語

試験種別	願書受付期間(郵送)	試験日	合格発表日
A方式	1/7(水)~1/21(水)	2/2(月)	2/9(月)
B方式	1/7(水)~1/21(水)	2/1(日)	2/9(月)
C方式	1/7(水)~1/16(金)	大学入試センター試験利用	2/19(木)
	2/2(月)~2/25(水)		3/4(水)
D方式	2/23(月)~3/6(金)	3/12(木)	3/18(水)

◇両学部一般入試の方式について
 A方式：アラカルト複数科目入試
 B方式：アラカルト1科目入試
 C方式：大学入試センター試験利用入試
 D方式：現代文1科目入試(文学部のみ)
 E方式：英語・国語の2科目入試(国際政治経済学部のみ)

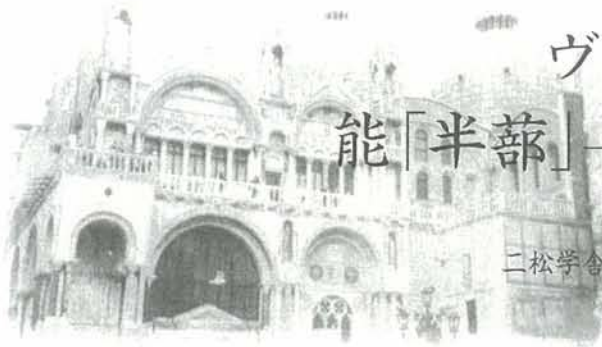
国際政治経済学部(国際政治経済学科)

4専攻

国際政治・国際協力、法・行政、国際経済・ビジネス、東アジアの文化と社会

試験種別	願書受付期間(郵送)	試験日	合格発表日	
A方式	1/7(水)~1/21(水)	2/2(月)	2/9(月)	
B方式	前期	1/7(水)~1/21(水)	2/1(日)	2/9(月)
	後期	2/17(火)~2/27(金)	3/6(金)	3/10(火)
C方式	前期	1/7(水)~1/16(金)	大学入試センター試験利用	2/9(月)
	後期	2/17(火)~3/9(月)	大学入試センター試験利用	3/19(木)
E方式	1/26(月)~2/13(金)	2/19(木)	2/25(水)	

●入試に関する問い合わせ先：〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16
 二松学舎大学 入試課(九段校舎 TEL.03-3261-7423)



ヴェネチア大(伊国)で 能「半蔀」—『源氏物語』一千年紀

二松学舎大学名誉教授 松田 存



今年、かの紫式部(九七八—一〇一四)による世界的ロマン『源氏物語』成立一千年に当ることから、縁の地をはじめとし、内外各地で様々なイベントが開催されている。

その先取りともいべき春ままだき三月十一日(火)、『源氏物語』一千年紀能がヴェネチア大学であった。当日は午前、新装なった大学の劇場において筆者の『源氏物語』と能という、本説と戯作品との解説講演が、B・ルベルティ教授の補足解説によってあり、前座としてまず仕舞、一番が舞われ、能上演の設置に入った。「半蔀」ならば立花ということ、水の都ヴェネチアの時の花が正面先に飾られ、かつ半蔀の作り物が舞台へ据えられたの半能で上演された。都は紫野の雲林院の僧が、「草顔潤が甚に滋し」五条辺

りの廃屋を訪ずれると、草の半蔀を静かに押し明けて女の声がかすかに聞こえ、ほんやりとその姿(夕顔ノ上の霊)を現わす件りである。そして、かの光源氏と契りをつ結んだ顔末を物語り、夜もすがら舞(序之舞)を舞ってみせ、暁の鐘の音とともに、その姿は半蔀の中に消えて行った。

『源氏物語』をふまえた謡曲としての名文が綴られ、夕顔の上と夕顔の花を二重に写したシテに、かなりレベルの高い日本語科の学生にこよない魅力を感じさせたことだった。整理券を持ちながら立見を余儀なくさせられた学生も数十名に及んだというところで、三百余の席から起る拍手は限りなく場内をこたました。



櫻間右陣(さくらまうじん)

1961年 シテ方金春流人間国宝・櫻間道雄の初男子孫に生まれる。後に櫻間道雄・櫻間金太郎の嗣子となる。故櫻間道雄、故櫻間金太郎に師事。櫻間家第二十一代当主(社)能楽協会会員、(社)日本能楽会会員、重要無形文化財総合指定保持者

昼食後、午後は大学教室でのワークショップに櫻間右陣師他三人で臨んだ。初めて面や装束を手にし、日本の伝統文化にこよない魅力を感じさせた一日でもあり、ヴェネチアの街にUniversità Nishō Gakushū di Tokyoと記されたポスターにも一沫の喜びを感じるこただった。

Università Ca' Foscari Venezia
Con il contributo della Japan Foundation Tokyo
per l'ITINERARIO
ISTITUTO GIAPPONESE DI CULTURA
日本文化財局
Per informazioni:
Dipartimento Studi
Università Ca' Foscari Venezia
Palazzo Università Venezia
Dorsoduro, 3457 Venezia
Tel. 041/274911
www.istitutogiapponese.it

SPETTACOLO DI TEATRO NŌ
In omaggio ai 1000 anni del Genji monogatari

11 marzo 2008 ore 10:30
Auditorium Santa Margherita
Dorsoduro 3689 - Venezia

Introduzione: prof. MATSUDA Tamotsu (professore emerito dell'Università Nishō Gakushū di Tokyo)
Shimai (danze nō):
Tsunemasa
Kakitsubata
Asolo del fue (flauto)
Hashitomi

Ingresso su invito

Il nō forma di spettacolo giapponese fondata su poesia, canto, danza e musica che in quasi sette secoli di storia, ha affinato una tradizione di straordinaria precisione e che rappresenta il genere di teatro di rappresentazione più antico e più bello del mondo. Il Giappone, riconosciuto nel 2002 dall'UNESCO come patrimonio culturale immateriale dell'umanità.

La compagnia L.1. compagnia Sakurama, A. è guidata dall'allievo (senza) Sawayama Taro della scuola Kōshū, una delle scuole di teatro nō della storia più antica originata dall'area di Kamuro, con opere a rischio di estinzione del più importante tempio buddista di Nara. Tra i suoi discepoli sono Kijima Zenshu (1425-1470), che con il suo nipote Zenji (1363-1443) ha scritto la storia del teatro nō su trama, i trattati e la riflessione teorica, sia con la pratica di offrire e la composizione di alcuni dei drammi più suggestivi tuttora rappresentati.

ヴェネチア公演ポスター



ヴェネチア大教室でのワークショップ。右奥・櫻間氏、手前・伊藤氏の所作に見入る学生たち

第4回シンポジウム『論語』

平成20年

11月29日(土)

10:00~16:45

二松學舎大学中洲記念講堂



特別対談 10:15~11:45

前田 日明

(株式会社リングスCEO)

対談者: 白井 雅彦 (二松學舎大学非常勤講師)

進行: 竹下 悦子 (二松學舎大学教授)

自分になる為の『論語』

現代に活きる論語

報告

13:00~14:00

① 卯 和順 (北海道大学大学院文学研究科教授)

「中国思想と『論語』解釈」

14:15~15:15

② 浅野 進太 (二松學舎大学附属高等学校教諭)

「人間学としての『論語』に学ぶ」

15:30~16:30

③ 溝本 (安岡) 定子 (文京区「文の京(ふみのみやこ)こども論語塾」講師)

「こどもと楽しむ『論語』」

【お問い合わせ】

E-mail: rongo@nishogakusha-u.ac.jp

TEL: 03-3261-1285 (平日9:00~17:00)

【お申し込み方法】

<http://www.nishogakusha-u.ac.jp/>

(詳しくは、本学ホームページをご覧ください。)

入場無料(要予約)

※定員になり次第、締切らせていただきます。

○市ヶ谷駅「有明」改札口より徒歩15分
○地下鉄 有明線 市ヶ谷駅 改札口「有明」改札口より徒歩15分



主催: 二松學舎大学 〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16

後援: 文部科学省・東京都教育委員会・千代田区・千葉県教育委員会・毎日新聞社・読売新聞東京本社・

日本経済新聞社・産経新聞社・漢字文化振興会・全国漢文教育学会・斯文会・

二松學舎松茶会・二松學舎後援会

協賛: 株式会社トング東京支店・三井住友海上火災保険株式会社・リコー販売株式会社千葉事業本部

二松學舎大学
※会場には駐車場がありません。お家までのお帰りはご遠慮ください。